

御幸学区

まちづくり計画

～ 御幸町にほこりを持ち、ローズマインド
(思いやり, やさしさ, 助け合いの心)
あふれるまちをつくろう ～



御幸学区まちづくり推進委員会

目 次

1 はじめに

(1) 「御幸学区まちづくり計画」の位置づけ

(2) 御幸町の概要

2 御幸学区の現状・課題

3 まちづくりの方向性

(1) コンセプト

(2) 御幸学区の目指す将来像

(3) 計画策定に向けての基本姿勢

(4) 「御幸学区まちづくり計画」策定までの取り組み経過



4 まちづくりの施策（新たに取り組む事業）

総務・広報部会

地域福祉部会

地域文化部会

地域安全部会



5 継続する事業

6 まちづくり計画の推進体制

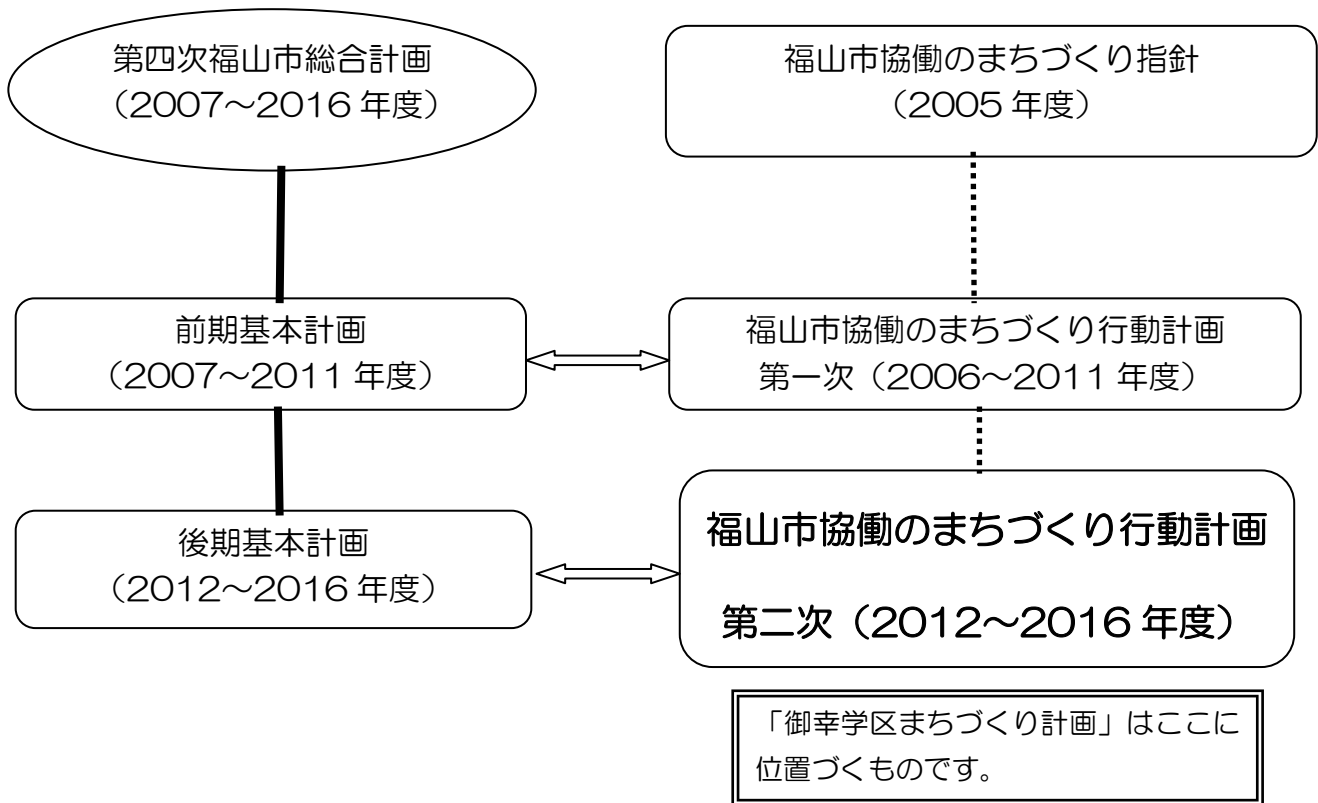
7 おわりに

福山市市制施行 100 周年記念
第 66 回御幸学区町民大運動会
大人文字とバルーン（風船）リリース

1 はじめに

(1) 「御幸学区まちづくり計画」の位置づけ

「御幸学区まちづくり計画」は、「第四次福山市総合計画」に位置づけられた「協働のまちづくり」を、「福山市協働のまちづくり指針」に基づき推進していくことを目的として策定するものです。



(2) 御幸学区の概要

日本全国に、「御幸」という地名はたくさんあります。これら「御幸」は、多くは「みゆき」と読み、天皇が地方へ行幸されたことにちなんで付けられているのです。

私たちの住む御幸町も、昭和5年（1930年）に陸軍特別大演習がおこなわれ、昭和天皇が正戸山頂上にて統監されたことにより、昭和13年（1938年）に深安郡上岩成村・下岩成村・森脇村・中津原村が合併して御幸村が生まれ、その後、昭和31年（1956年）に福山市に編入され、御幸町となり現在に至っています。

御幸町は福山市のほぼ中心に位置し、南北に4kmと細長く、平地が大部分を占めており、面積は約600haです。

御幸町の歴史については、御幸学区まちづくり推進委員会発行の「興替（こうたい）—御幸町の歴史散歩—（2011年発行）」に詳しく述べられています。

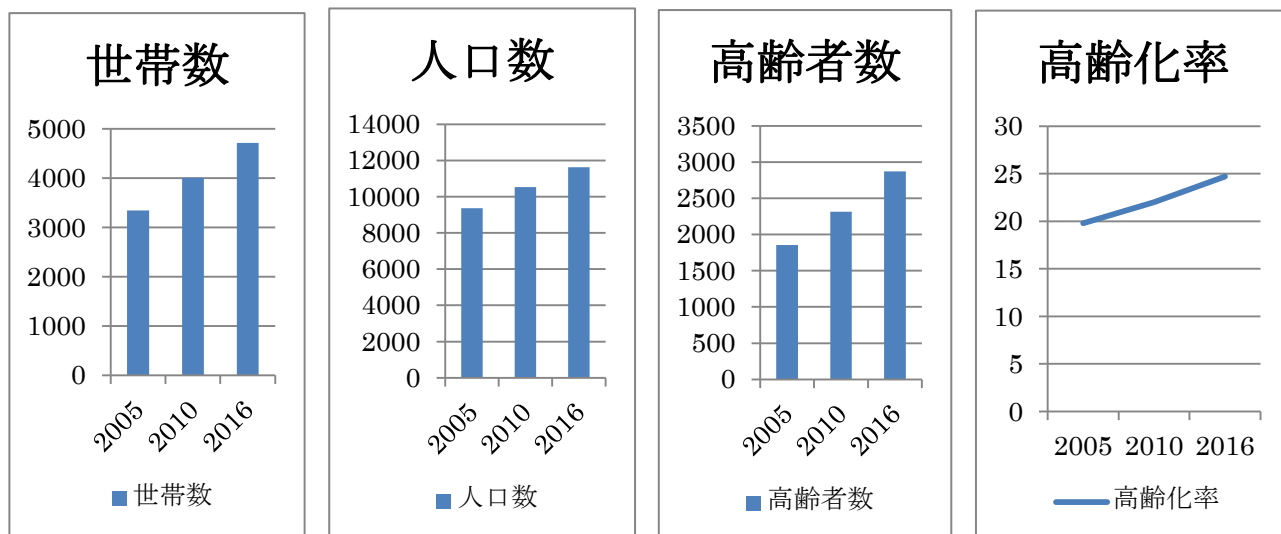
概括すると、古代「穴の海」と呼ばれた時代から、「石成庄」（いわなりのしょう）の時代を経て、上岩成・下岩成・森脇・中津原が、それぞれの地理的状況と深く関連しながら発展し、上記のように合併・編入の経過をたどって来ました。

御幸町は、昔から米作りが盛んに行われてきました。近年は宅地化が進行し、町内には各種の特色ある製造業の会社が立地され、県立ふくやま産業交流館・総合病院・大学・大型スーパーなどが進出し、都市化が進んでいます。

御幸町は世帯数・人口数とも増加傾向にあり、また、高齢者人口も増加し高齢化率も上昇しています。

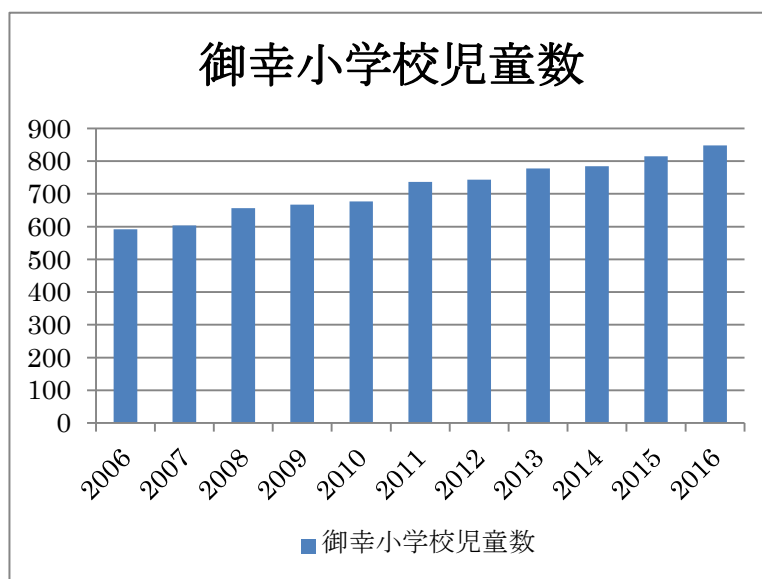
年	世帯数(戸)	人口(人)	高齢者人口(人)	高齢化率(%)
2005	3,341	9,358	1,857	19.8
2010	4,005	10,526	2,314	22.0
2016	4,710	11,623	2,871	24.7

(各年3月末)



御幸小学校児童数も増加しており、2016年度は福山市第2の大規模校となっています。

年	児童数(人)
2006	592
2007	603
2008	656
2009	667
2010	677
2011	736
2012	743
2013	778
2014	784
2015	815
2016	848



2 御幸学区の現状・課題

以上のような学区の概要を整理して、御幸学区の現状・課題を、次のようにまとめることができます。

- ① 御幸学区は人口が増加し活性化してきているが、人と人とのつながりが希薄になりつつある。
- ② 御幸学区においても高齢者人口が増加し、一人暮らし世帯や高齢者のみの世帯が増えてきている。
- ③ 御幸学区においても、地震・水害など大きな自然災害が発生する危険性がないとはいえ、平常時において防災・減災の体制づくりが必要となっている。

3 まちづくりの方向性

御幸学区の現状と課題を踏まえて、御幸学区まちづくり計画の方向性を次のように考えます。

(1) コンセプト

～ 御幸町にほこりを持ち、ローズマインド（思いやり、やさしさ、助け合いの心）あられるまちをつくろう ～

(2) 御幸学区の目指す将来像

～ 世代間を超えて人と人がつながり、高齢になっても安心して住み続けることのできるまち ～

(3) 計画策定に向けての基本姿勢

計画策定にあたって、次の点を基本姿勢として作業を進めました。

- ・ 御幸学区の目指すべき将来像の実現や課題の解決に向けて、御幸学区まちづくり推進委員会の組織と事業内容を継続するとともに、新事業を創造していく。
- ・ 「御幸学区まちづくり計画」に、御幸学区の将来を担う児童の提言を取り入れる。

策定にあたって参考にした主な資料は、次のとおりです。

(資料1) まちづくり推進事業の成果・課題

年度	成果	課題	特色的事業
2006 (平成 18)	総務・広報部会、地域文化部会、地域安全部会の3部会が連携を取り、協働しながら活動を主体的に進めてきた。 そのため行事参加人数が増大するとともに、活動内容は充実し、地域住民の意識が高揚した。	総務・広報部会の中に福祉関係の活動が多く含まれていた。 次年度は「地域福祉部会」を増設し、さらに活動の特徴を生かし、地域住民のまちづくり意識の高揚に努めたい。	・「御幸町の昔話」の紙芝居DVD化 ・「御幸音頭」をCD化
2011 (平成 23)	各部会の主体的、計画的事業実施により、事業内容が地域住民に広く理解されるようになった。	事業内容についてさらなる工夫、検討が必要である。	「興替—御幸町の歴史散歩—」の発行
2012 (平成 24)	各部会が協働のまちづくりの意義を踏まえ、主体的に計画的に取り組まれるようになった。	役員が固定化しているの で、取り組む層の拡大が必要である。	御幸学区ボランティア活動推進事業 ・御幸学区ボランティアセンター設立
2015 (平成 27)	福山市市制施行 100 周年記念事業イベント「みゆきフェスタ 2015」を学区内各種団体の協力を得て準備を積みあげ、成功させることによって、学区住民の絆が強まった。	学区内の人の交流をさらに進め、高齢者支援・子育て支援、防災・減災対応、安心・安全な学区をめざし、意義ある活動を工夫実施していくことが必要である。	福山市市制施行 100 周年記念事業イベント開催 ・みゆきばら花壇スタンプラリー ・「みゆきフェスタ 2015」

(各年度の「協働のまちづくり推進事業報告書」より)



みゆきばら花壇スタンプラリー



イベント (折り紙ヒコーキ)



「ふるさと学習」児童発表

“第1回御幸小学校「協働のまちづくり」参画会議”で提案された企画

提案内容の概要



「高齢化問題」

- ① GMプロジェクト (G — ごめんください M — みゆきっこです)
御幸学区ボランティアセンターの方と、一人暮らしの高齢者のお宅を訪問
- ② レッツ！ 御幸クッキング！
公民館との連携で料理教室 (昔の食事を調理する)
- ③ 高齢者の新体力テスト
MDSピック (M — 御幸 D — 大好き S — シルバー)

「人と人とのつながり」

- ④ 人と人とのつながりを深めるイベント フォトコンテストの開催
みゆき みんな de ハイチーズ
- ⑤ スマイルパークプロジェクト ～ 笑顔あふれる公園 ～
公園の充実 笑顔の絶えない御幸町！
- ⑥ 「祭り、行事、復活！ つくろう Ze 計画」
祭りの復活！ 新しい祭り&行事を作る！
- ⑦ 名物作成プロジェクト！
御幸町の名物をつくろう！
- ⑧ みんながつながる！ 巨大手形アート
大切なふるさと御幸 人と人とのつながり ローズマインド
- ⑨ 御幸の自慢 スタンプラリー
ふるさと御幸！ 私たちの想いを100年後まで！



「環境問題」

- ⑩ MIYUKI ゴミ拾い大会！
御幸町をきれいな町に！！
- ⑪ 御幸グリーン化プラン！
大好きな御幸町を自然豊かに！
- ⑫ 取り戻せ！ 水の町。御幸町！ 植林活動
御幸町全体で年に一度「植林祭」



(2016年3月2日 御幸小学校体育館にて開催)

(4)「御幸学区まちづくり計画」策定までの取り組み経過

学区の状況をできる限り反映した計画にするため、まちづくり推進委員会の各部会や部会長会を繰り返し開催しました。また、人権啓発推進協議会総会や地域別住民学習会、そして御幸小学校児童の「まちづくり参画会議」などの意見も参考にしました。

	会 議 等	内 容	時 期
1	地域別住民学習会	多くの地域からつながりを深めるには、「あいさつが大切」という意見を収集。	2015年 9月～11月
2	人権啓発推進協議会 総会	「あいさつ運動」・「高齢者支援の訪問活動」に取り組むことを確認。	1月29日
3	まちづくり推進委員会 部会長会	御幸小学校6年生のまちづくり参画会議への対応について協議。	2月27日
4	児童による「参画会議」 (まちづくり推進委員会 部会長会)	6年生(114名)による「協働のまちづくり」の発表 ・「高齢化問題」「人と人とのつながり」「環境問題」について児童の提言を聞きながら交流。	3月 2日
5	第1回策定委員会	・策定の基本構想(案)の提示。 ・6年生の提言内容の報告と基本構想の協議。	3月28日
6	まちづくり推進委員会 部会長会	第1回策定委員会で出た意見を踏まえて、策定に向け、今後の取組みとタイムスケジュールについて協議。	4月25日 5月12日
7	まちづくり推進委員会 各部会	各部会で活動の具体案を協議し作成。	5月～7月
8	御幸小学校児童朝会	訪問活動の愛称を児童から募集し「ニコニコ訪問」に決定し児童全員に朝会で報告。	6月13日
9	人権啓発推進協議会 総会	今年度の人権啓発計画を協議・決定。 ・「あいさつ運動」「訪問活動(ニコニコ訪問)」について、人推協委員から意見を収集。	6月29日
10	人権啓発推進協議会 拡大研究委員会	住民学習会の内容提示。 ・「あいさつ運動」「ニコニコ訪問」の集約を報告。	8月2日
11	まちづくり推進委員会 部会長会	各部会から出された計画について協議・調整。	8月10日 9月26日 10月17日
12	地域別住民学習会	「あいさつ運動」「ニコニコ訪問」について、住民学習会で提案し、意見を聴取。	9月～11月
13	まちづくり推進委員会 総会	「御幸学区まちづくり計画」を提案・決定。	10月31日
14	学区への説明・周知	「みゆきフェスタ2016」で「まちづくり計画」を発表。	11月13日
15	印刷・製本発注	東部生涯学習センターへ依頼。	11月中

4 「御幸学区まちづくり計画」の施策

御幸学区まちづくり推進委員会の「総務・広報部会」「地域福祉部会」「地域文化部会」「地域安全部会」の4部会が、それぞれ新たな事業を計画していきました。

それぞれの事業計画を、(1) 施策名、(2) 目的、(3) 設定理由、(4) 概要、(5) 年次計画、(6) 留意事項 の6項目で整理しました。

総務・広報部会

(1) 施策名

あいさつ運動の具体化



(2) 目的

学区全体に、あいさつを交わしあう雰囲気を広げていくことを目的とします。

(3) 設定の理由

あいさつを交わしあうことは、人と人とのつながりが深まるきっかけであり、多くの人々が認めることですが、初対面では勇気のいることもあります。

そこで、学区全体であいさつを交わしあう雰囲気を広げていくことを目的としてあいさつ運動に取り組みます。あいさつを交わしあう雰囲気が広がっていくことによって、人と人とのつながりが増えるきっかけになりますし、高齢者や一人暮らしの人にとっては、声を出す機会が増えることで生きる力にもなります。

また、子どもたちにとっても、「安心・安全に過ごせる地域」につながっていくものと考えます。

(4) 概要

- 1) 標語やポスターの募集を、広く住民に呼び掛けます。
- 2) 応募していただいた標語やポスターを有効に活用し、啓発活動を行います。
- 3) 地域別住民学習等を活用して、「あいさつ運動」への理解を広げます。

(5) 年次計画

1) 2017年度（平成29年度）

- ① 広く住民に呼び掛けて、標語やポスターを募集。
- ② 応募のあった標語やポスターを有効活用した啓発活動の実施。
- ③ 地域別住民学習等を活用した「あいさつ運動」への理解の拡大。

2) 2018年度（平成30年度）

- ① 標語やポスターを活用した啓発活動の継続実施。
- ② 地域別住民学習等を活用した「あいさつ運動」への理解の拡大。

3) 2019年度（平成31年度）

- ① 標語やポスターを活用した啓発活動の継続実施。
- ② 地域別住民学習等を活用した「あいさつ運動」への理解の拡大。

4) 2020年度（平成32年度）以降
進捗状況を踏まえた継続実施

(6) 留意事項

御幸学区人権啓発推進協議会や青少年育成員協議会と連携し取り組む。

地域福祉部会

(1) 施策名

「ニコニコ訪問」の推進



(2) 目的

訪問活動を通して、地域の中で高齢者との日常的なつながりを深め、高齢者の孤立感や生活不安を解消することを目的とします。

(3) 設定の経過・理由

- ・御幸学区では、地域の福祉活動を「まちづくり推進委員会地域福祉部会」、「福祉を高める会」、「ボランティアセンター」が連携し進めています。訪問活動についても、実施に向けて合同で研修を進め、具体的な計画案を作成します。
- ・2012年（平成24年）「学区ボランティアセンター」が開設され、ボランティア「みゆきさん」による「生活の困りごとなどの相談や支援の活動」が始まりました。訪問活動は、これらの取り組みと連携させ発展させるもので、地域全体で高齢者を支え、安心・安全なまちづくりを目指します。
- ・「ニコニコ訪問」の愛称は、「ふるさと学習」で発表された御幸小学校児童の発想を取り入れたものです。児童も学習を通して、一人暮らしの高齢者が増えている地域実態をよく知っており、「ニコニコ訪問」の具体的な活動の中に、児童が参加・体験できる内容を設定します。

(4) 概要

1) 活動内容

ニコニコ訪問は、地域の「一人暮らし世帯や高齢者のみの世帯」への取り組みで、同じ地域に住む人がグループ（2～3名）を作り、支援を必要とする一人暮らしの高齢者宅などを、定期的に訪問するものです。

ニコニコ訪問は、事前に訪問する世帯の同意を得て行います。また、個人情

報の保護を徹底し、次のような活動を行います。

- ① 声かけや安否確認。
- ② 簡単な生活の支援を目的として、個別の要望などを聞き取り、「ボランティアセンター」へつなぐ活動。
 - ・ごみ出し ・部屋の掃除 ・庭の草取り ・お話し相手 ・代筆、代読
 - ・回覧板のお手伝い ・蛍光灯の交換 ・子育て支援に関すること
- ③ 地域の「たまり場」などへの参加を支援する活動。
- ④ 地域包括支援センターなど、専門機関へつなぐ活動。



2) 訪問の対象者

- ① 75歳以上の一人暮らし世帯，高齢者のみの世帯。
- ② 訪問・支援を希望する世帯。

3) 訪問活動の協力者

- ① 自治会（町内会）長，ボランティアセンター，福祉委員，民生・児童委員などが，2～3名のグループを編成し行う。
- ② 訪問活動（いつ・だれが・なにを）を記録する。
- ③ 協力者への守秘義務を徹底する。



(5) 年次計画

1) 2017年度（平成29年度）

- ① ニコニコ訪問の趣旨を地域へ周知し，理解拡大。
 - ・自治会（町内会）役員
 - ・住民学習会
- ② 民生・児童委員との話し合い。
 - ・趣旨への理解と協力
 - ・訪問対象者について情報交換
- ③ 訪問対象者世帯との話し合い。
 - ・家族を交えて話し合い，同意を得る。
- ④ 訪問協力者のグループ編成
 - ・対象者ごとに，グループを固定。
 - ・ニコニコ訪問（第1回訪問は，6月を目標）



2) 2018年度（平成30年度）

- ① ニコニコ訪問の継続実施。
 - ・地域の対象者ごとに状況に応じた個別訪問。
 - ・訪問対象者世帯（継続・新規）との話し合い。
 - ・訪問協力者の研修とグループ編成。
- ② ニコニコ訪問の周知と理解を深める活動。
 - ・自治会（町内会）役員への報告と情報交流。



- ・住民学習会などを通して意見集約。
- ③ 学区にある「たまり場」との情報交流会。

3) 2019 年度（平成 31 年度）

- ① ニコニコ訪問の継続実施。
- ② ニコニコ訪問の周知と理解を深める活動。
- ③ 学区にある「たまり場」との情報交流会。

4) 2020 年度（平成 32 年度）以降
進捗状況を踏まえた継続実施

(6) 留意事項

- ① 民生・児童委員との連携。
 - ・定期的に開催し情報を交流
- ② 御幸小学校「ふるさと学習」（高学年）との連携と交流。
 - ・学習内容の話し合いや訪問活動への参加

地域文化部会

(1) 施策名

人と人とのつながりの強化

(2) 目的

～御幸町にほこりを持ち、ローズマインド（思いやり、やさしさ、助け合いの心）あふれるまちをつくろう～ のコンセプトを基に、人と人とのつながりの強化を図ることを目的とします。

(3) 設定の理由

- ・近年御幸学区は他地域からの転入が顕著で、従来からの住民と新しく来られた人とのつながりができにくい状況にあります。また、一人暮らしの高齢者や高齢者のみの世帯が増えるなかで、核家族化がより一層進行し、お互いのつながりが希薄になっている状況にあります。
- ・お互いが共通の文化を共有し、同じ目線で地域を見ることで、人のつながりをより強化できます。
- ・人と人とのつながりが深まれば、地域課題の解決をより一層図ることができます。

(4) 概要

1) 「みゆき百選」について

- ① みゆき百選の選定候補を地域文化部会員で作成します。



- ・参考資料 一 御幸歴史散歩「興替」「みゆきの昔ばなし（全5巻）」
参考資料を基に一人が10候補程度選定。

- ② みゆき百選の候補を300程度準備し、事前に町内に発表します。
- ③ みゆきフェスタ2016で投票箱を準備し、みゆき百選を選考します。

2) 「みゆき百選」の活用について

- (例)
- ・みゆき百選スタンプラリーの開催。
 - ・みゆき百選ウォーキングの開催。
 - ・たまり場や小学校の学習活動で利用。



3) みゆきカルタ製作について

- ・現在のカルタ在庫数———17部
 - ・今後製作予定数———50部
- ① 製作にあたっては、地域文化部会員で行います。(みゆきカルタ)
 - ② 製作の手法は、今までの手法を踏襲します。



4) みゆきカルタの活用について

- ① 御幸町の歴史や文化等について、カルタを一緒に楽しむ中でお互いの共通の課題を見つけることで、人と人とのつながりの強化に活用できます。
- ② みゆきカルタの冊子を一緒に利用することで、御幸町の知らないこと、疑問に思うことを話し合い、現地を歩くなどグループで活用することで、人と人とのつながりができます。

5) 御幸歴史散歩「興替」の改訂について

- ① 「興替」は在庫がなく、今でも多くの方が希望しています。
- ② 「興替」と「みゆきカルタ」は地域文化部会で製作した本です。御幸町の地域情報を発信することで、小学校の「ふるさと学習」や各地区のたまり場、御幸町に新たに居住される人などに利用していただき、地域の理解に役立てて欲しい。

(5) 年次計画

1) 2017年度(平成29年度)

- ① 「みゆき百選」の選定
みゆきフェスタ2016・第37回町民文化祭会場で投票された内容を選考。
- ② 「みゆき百選」に選考された事項を御幸町内に発表、公表。
- ③ 「みゆきカルタ」の冊子を増刷。
- ④ 御幸歴史散歩「興替」の内容の検討開始。

2) 2018年度(平成30年度)

- ① 「みゆき百選」を使用してスタンプラリーを計画。
- ② 小中学生に「みゆき百選」に載っている場所や事項の内容を理解してもらうた

め、学校の「ふるさと学習会」に参加・協力。

③ 御幸歴史散歩「興替」の具体的な改訂計画を策定。

3) 2019年度(平成31年度)

- ① 御幸歴史散歩「興替」の内容を検討。
- ② 「みゆき百選」を使用してスタンプラリーを計画。
- ③ 御幸町の歴史・文化継承のため研修会を開催。

4) 2020年度(平成32年度)以降
進捗状況をふまえて継続実施

(6) 留意事項

・ 御幸公民館で生涯学習を学んでいる人たちと協力して活動する。



地域安全部会

(1) 施策名

安心・安全な地域づくり活動の推進

(2) 目的

- 1) 自然災害発生時に対する地域住民の認識を高め、自助共助の意識の向上を目的とします。
- 2) 児童の下校時、防犯と安全な下校見守りを目的とするボランティア活動を実施します。

(3) 設定の理由

- 1) 昨今、地震・大雨による洪水・土砂災害など自然災害が多発しています。御幸学区においても防災・減災を目的に、毎年実施されてきた学区自主防災組織の避難訓練において、平常時より災害への備えを促進しておくことが重要です。
- 2) 児童の下校時、周辺の住民が防犯と安全な下校を願い、2006年より「見守り、声かけボランティア活動」を行って来ました。今後も、継続事業とすることが重要です。

(4) 概要

- 1) 学区防災訓練において、安否確認、情報収集の共有、避難の誘導、避難行動要支援者への支援など、避難訓練を重ね、防災減災・自助共助の意識の向上を進めていきます。
- 2) 「自分の身は自分で守る」ために、緊急時に役立つ防災マップ作りを地域住民全員参加で行います。

- 3) 防災マップづくりのための危険個所の確認，避難弱者援助等配慮しながら防災まちあるきを行います。
- 4) 児童の下校時，庭先清掃，畑・たんぼ作業，買い物時など，日常生活の中で，身近な見守りボランティア活動を行います。活動時はベスト・帽子を着用し，あいさつ，声かけ，注意喚起など行います。

(5) 年次計画

1) 2017年度（平成29年度）

- ① 学区自主防災訓練参加者の増員と防災意識の向上。
- ② 防災マップ作り研修会の実施。
 - ・福山市より講師を招き，4支部ごとに実施。
 - ・自治会（町内会）より多数の参加を求め，地域の防災リーダーを育成。
- ③ 見守りボランティアの増員と，交流会の一層の内容充実
 - ・ボランティア交流会では，部会の活動報告を行うと共に，各地域の活動事例，課題（危険個所等）など，4支部ごとに報告を行い，意見交換をする。
 - ・登録ボランティアに交流会の記録を配付し，情報を共有する。
- ④ 意識の向上を図るため，市県等が行う研修会へ参加。



2) 2018年度（平成30年度）

- ① 学区防災訓練の継続実施と充実。
- ② 自治会（町内会）全員参加で，防災まちあるきと防災マップ作りの実施。
- ③ 見守りボランティアの増員と，交流会の一層の内容充実
 - ・ボランティア交流会では，部会の活動報告を行うと共に，各地域の活動事例，課題（危険個所等）など，4支部ごとに報告を行い，意見交換をする。
 - ・登録ボランティアに交流会の記録を配付し，情報を共有する。
- ④ 意識の向上を図るため，市県等が行う研修会へ参加。



3) 2019年度（平成31年度）

- ① 学区防災訓練の継続実施と充実。
- ② 自治会（町内会）での防災マップの見直しと避難訓練の継続実施。
- ③ 見守りボランティアの増員と，交流会の一層の内容充実
 - ・ボランティア交流会では，部会の活動報告を行うと共に，各地域の活動事例，課題（危険個所等）など，4支部ごとに報告を行い，意見交換をする。
 - ・登録ボランティアに交流会の記録を配布し，情報を共有する。
- ④ 意識の向上を図るため，市県等が行う研修会へ参加。

4) 2020年度（平成32年度）以降 進捗状況をふまえて継続実施

(6) 留意事項

- ・御幸学区自治会連合会，御幸学区自主防災組織と連携して行う。



5 継続する事業

御幸学区まちづくり推進委員会が実施してきた事業を、まちづくり計画の「コンセプト」と、「学区の目指す将来像実現」の趣旨を込めて継続して取り組んでいる写真を紹介します。



健康ウォーキング（御幸町の歴史散歩）



ばら花壇剪定作業



安心・安全講演会



下校ボランティア



認知症予防講演会



新春絆ウォーキング



男の料理教室



三世代ふれあいグラウンド・ゴルフ大会



ハートフルコンサート



みゆきフェスタ



自主防災訓練



三世代交流折り紙ヒコーキ教室



御幸町盆踊り大会



6 まちづくり計画の推進体制

「御幸学区まちづくり計画」は、現在の「御幸学区まちづくり推進委員会」の組織体制で推進します。

御幸学区まちづくり推進委員会構成団体（25団体）

御幸学区自治会連合会	御幸学区人権啓発協議会
御幸学区体育会	御幸小学校（交通指導員）
御幸小学校PTA	幸千中学校PTA
御幸保育所	御幸保育所保護者会
御幸学区公衆衛生推進協議会	御幸学区子ども会育成協議会
御幸学区老人クラブ連合会	御幸学区福祉を高める会
御幸学区自主防災組織	御幸学区防犯組合・地域安全推進委員
消防団御幸分団	消防後援会
福山市北防火協会御幸支部	御幸学区交通安全自治会
御幸学区行政職員の会（御幸会）	民生・児童委員協議会
御幸学区青少年育成員協議会	御幸学区ボランティアセンター
御幸公民館	御幸公民館運営委員会
ふれあい委員会（グループ・サークル）	

7 おわりに

御幸学区では、まちづくり推進委員会が中心となって、2015年度（平成27年度）に福山市市制施行100周年プレイベントを、5月に「みゆきばら花壇スタンプラリー」、11月に「みゆきフェスタ2015・第36回町民文化祭」を開催しました。学区内外から多くの皆様のご参加をいただき、盛大に実施することができました。

この地域力の盛り上がりをもとに、学区の抱える課題の解決と、より安心・安全な御幸町実現を目指して、「御幸学区まちづくり計画」を策定しました。

学区の皆様お一人おひとりの力を結集して、住みよいまちを作っていきましょう。



御幸音頭

作詞 高島勝士 作曲 佐藤 貢

1

ハアー備後御幸はすみよいところ
一目千石黄金の波は
人もうらやむ米どころ（ハアーヨイヨイ）
あねごかぶりもキリキリシャント
いきなあこのの いきなあこのの かたえくぼ
イヤサホンマにエートコね



2

ハアー備後御幸は楽しいところ
みどりのそよ風にっこりあびて
私转自慢の正戸山（ハアーヨイヨイ）
会いに行こうか文ことづけうか
ひとにゃ言えない 人にゃ言えない恋心
イヤサホンマにエートコね



3

ハアー備後御幸は伸び行くところ
門出祝うか工場の庭に
今日も希望の鐘が鳴る（ハアーヨイヨイ）
はやる思いをシンボに決めた
若さあふれる 若さあふれる花姿
イヤサホンマにエートコね



4

ハアー備後御幸はうれしいところ
はるも音頭に今宵もふけりゃ
月もむせぶよ芦田川（ハアーヨイヨイ）
踊り上手なうわさの二人
交わす笑顔が 交わす笑顔が気にかかる
イヤサホンマにエートコね



5

ハアー備後御幸は平和なところ
かみなぎるあなたのぼくと
再起一度の血が踊る（ハアーヨイヨイ）
締めたハチマキかのこのしぼり
もゆる瞳の もゆる瞳の伊達男
イヤサホンマにエートコね